

## 報 告

## 第2回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 福島

一般財団法人啓成会 片石 任

## 1. はじめに

平成26年4月12日(土)、13日(日)の2日間にわたり、日本リハビリテーション工学協会主催の第2回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 福島が福島テルサを会場として開催された。被災地復興の一助になれば、との思いを込め、大震災から3年が経ち記憶からも遠ざかっていきそうになるなか、忘れることのないよう協会活動のひとつとして、被災県である福島県にてリハ工学・支援技術に関する講習会が開催されたことは意味深い。その様子を報告する。

## 2. 8SIG (Special Interest Group) が参加

SIGとは協会内専門部会であり、今回の講習会には、コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG、特別支援教育SIG、SIG住まいづくり、移乗機器SIG、義肢装具SIG、乗り物SIG、合わせて8SIGが共催として参加した。講習会はあらかじめ参加申し込み時に2日間で16ある講義の中から選択受講申込みをする形が取られた。復習確認の面もあるがやはり新しいことを学べる機会ありがたい。機器も技術も日々進化しているため私自身が置いていかれないように情報を仕入れていかなければならないと感じている。

コミュニケーションSIGの講義において、タブレット端末の活用例が紹介されていた。試せるところは自分のiPadを使いながら聴講したが、その時の設定が便利であったため、いまだその設定のまま使い続けている。知らなかったことで損をしていた気分である。そこから、利用者・使用者が何を望むのか?何

をしたいのか?それに対して提供できる情報(情報源)をどの程度持っているかが大切であると再認識した。どの講義も興味深く、すべてを聴講したかったが、講義会場が2つに分かれていた為、半分しか聴講できなかったのは仕方がないとはいえ残念である。

## 3. 講義 No. 5、 乗り物 SIG より

「24時間人工呼吸器使用者の在宅療養上のリスクマネジメント～東日本大震災の教訓から学んだこと～」と題し、ご自身がデュシェンヌ型筋ジストロフィー症患者であり、24時間人工呼吸器を使用されている桜井 理氏の講義である。2011年3月11日に起きた東日本大震災に宮城県名取市で被災され、地震発生直後から避難、津波を免れた後の避難先での様子を写真など交えての講義となった。日頃の備えの大切さを説く氏の言葉は説得力にあふれており、我が身につまされることばかりであった。人工呼吸器を24時間使用されている為、電源の確保は文字通り死活問題である。今回の震災でいかなる状況をも想定しておかなければならない大切さをあらためて知り、「想定外だったと言える自分はいない。」という氏の言葉は重かった。今後は「自助・共助・公助」とともに安心して地域で暮らしていけることを目指すと講義を締めくくった氏の言葉にあらためて自分自身も考えてみた。災害への備えはもとより、災害弱者へのかかわり方である。心のゆとりも含めて備えていきたいものである。

## 4. おわりに

東北地方は近くなった気がする。普段の通勤時間より短い時間で東北へ足を運べる方々が多いのではないだろうか。今後も続けていただきたいイベントのひとつである。ちょっとした旅行気分を味わいつつ、しっかり勉強と発見ができるのであるから。

一般財団法人啓成会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-13-8